令和５年度　第３回学校運営協議会（学校魅力強化委員会）議事録

1.　期日：令和５年１０月２４日（火）１５：００～１６：３０

2.　場所：有田工業高校　会議室（管理棟１階）

3.　参加者：校長を含む委員７名（欠席６名）
　　事務局１０名（本校職員）

4.　会次第及び議事録
(1) 開　会
(2) 学校長挨拶
(3) 議事
学校評価中間評価について
①　全日制
・現時点ではおおむね目標を達成していると考えている。
・SAGA コラボレーションスクール事業に関しても、協議会のたびに報告しているがほぼ目標通りになっていると考えている。

②　定時制
・中学校時代不登校だった生徒も多く、生徒の出席率については 90%以上を目標としていたが、93%と、今年度に関しては長期欠席の生徒はほとんどいない。生徒が記載する月末の「心のチェックシート」や毎日の「生活チェック表」などで、教員が生徒の気持ちの変化などを早めに気づくことができるような対応をしていることが、出席率向上の原因と考えられる。
・進路については、13 名の４年生のうち、４名が進学希望で、就職希望９名のうち８名がすでに内定をいただいている。例年であれば、面接がうまくいかないこともあったが、今年度はうまくいっている。
・２学期に生徒会主催で「スポーツフェスティバル」というミニ体育大会を実施した。この際に昨年度までは大会になかなか参加できなかった生徒も今年度は参加することができている。
○　質問：全日制にはスクールカウンセラーの活用を積極的に行うという評価目標があるが、定時制の場合はどうか。
回答（事務局）：全日制は月に２回スクールカウンセラーが来校しているが、そのうち１回は定時制にも来ていただいており、９月にはカウンセラーの先生に「SOS の出し方講座」を生徒対象に行ってもらっており、定時瀬でも積極的に活用している。

この後中間評価については承認された。

スクールミッションについて
・スクールミッションの再定義とスクールポリシーの策定は法に基づいている。

・スクールミッション等については、地域からの意見も取り入れながら策定することになっている。
・本校の校訓：勉脩　『愛し』『創り』『光れ』は平成２年に制定された。
・地域からの意見ということで学校運営協議会の委員の意見を取り入れたいと考えている。

- 意見：有田の人口も合併以降も減少が続いており、少子化、人手不足である。有工生が地元に残って就職してもらえないかと切に願っている。
- 意見：地元企業でも IT 人材の不足、例えば Web デザイナーやオンライン販売のための見栄えの良い写真撮影技術など、スキルを持っている人が少ない。IT とデザインの技術が生かせるような仕事が地元にもたくさんあるので、そのようなことを強化してもらえるといいと考えている。
- 意見：「開かれた学校」というのがキーワードになるのではないか。地域みらい留学のように入ってくる人もどんどん受け入れ、全国や海外へ出て行って活躍することで有工の名が知れ渡ることもある。入るのも出るのも開かれた学校にしていかなければならないのではないかと思う。
- 意見：県内や町内の企業への就職してほしいという思いもあり、調べてみたところ、東京都立の工業高校で「デュアルシステム」という専門教育があるようだ。学校では学ぶことの難しい特定の技術や専門分野を、企業と学校で連携して学ぶ取組である。生徒を一定期間学科に関連する企業で職業訓練を行い、実践的な技術や専門知識を学ばせる。そして生徒と企業の合意がなされると、職業訓練をした企業に就職が可能となるものである。このようなシステムを取っている学校は専門高校の中にいくつかあるようだが、特に東京の田無工業高校は通常の専門教育は普通に行い、夏休みなどの長期休業中に希望者が派遣されて体験することになっている。こういったことが有工でも実現できると、地元の企業と生徒とのマッチングが可能になってくるのではないか。
- 意見：自分のことだが、高校時代は部活動などせず建設業である家業の手伝い（アルバイト）を行っていた。初めのうちは何をすれば全く分からなかったが、慣れてくるとアルバイトで来ている人よりもできるようになった。先ほどの委員が言われたように、実際に仕事をすることで技術が身につくことがあるので、アルバイトでもよいし、夏休み期間などに学ぶこともよいのではないか。
- 意見：生徒の就職面接練習に参加したが、その時の印象としてこのまま社会に行っても大丈夫かなという不安があり、もう少し親や学校の先生以外の社会人と関わる機会が高校生にあった方がよいのではないか。地域などとのかかわりの中で、実際にビジネスを創る部活動のようなものが、他校ではいくつか動いているようだ。現在デザイン科が課題研究で素晴らしいことをやっているので、他の科とコラボレーションすることで面白い商品だったり企画だったりというものが生まれていくのではないか。この取組を町の人たちなど社会人と一緒にやるとよいのではないか。
- 意見：いま生徒は陶器市期間にアルバイトなどをしており、地域と関わっていてとても良いと思うが、早いうちから社会と馴染むために，自分たちで陶器市のときに店を出すなどビジネスに触れる、お金を稼ぐような機会があれば、やる気も変わってくると思うので、やってもよいのではないか。

● 意見：自分たちが作ったものをどう販売するか、ニーズ調査やマーケティングを行って地元の方や企業の方と協働して利益を上げていくというのを陶器市のときに行うというのはアイデアとしてよいのではないか。

● 意見：昨年秋の陶磁器まつりのときに大学の学生と連携して有田焼の販売を行った。有田工業だけでなく町や大学、協会などと連携して行うことも大切なのではないか。『連携』もキーワードとして取り入れてもらいたい。

● 意見：佐賀大学では有田町と包括連携協定を結んで様々な事業を行っている。有田工業も町などと連携協定を結ぶなどすれば、地元企業さんとも連携がやりやすくなるのではないか。

● 意見：デザイン科でずっと取り組んでいる「全国高等学校デザイン選手権大会」というコンテストがある。これはすごくレベルが高く、有工も全国１位になったこともある。このようなことが有工のデザイン科の中で非常に重要なキーになるのではないかと思っているので、何か面白いことができるのではないかと思っている。

○ 質問：資料中にあるアンケートはどういうものか。

回答（事務局）：このアンケート結果は校内の職員を対象に取ったものである。このアンケートやこの会議のように地域の皆様のご意見を取り入れてスクールミッションを作っていきたいと思っている。

○ 質問：スクールミッションをまとめていくのはなかなか大変そうだが、どのようにまとめるのか。

回答（事務局）：アンケートの中にあるキーワード、例えば職員の中でも『地域』というキーワードは多く使われており、「挨拶がいい」などというのは職員間や保護者からの意見でも出てきているので、そのような文言をキーワードとして残していけたらと思う。

○ 質問：資料の中の 2021 年 12 月に県に提出した『目指す学校像』の中で「志を持った生徒会活動」という文言があるが、これについて特徴的なものはあるか。

回答（事務局）：職員アンケートの中でも「志を持った生徒会活動」は難しいという意見があったり、「生徒会活動」だけでなく学校全体の教育活動に変更にすべきだという意見があったりと、少し変えた方がよいのではないかという意見があっている。また、平成 19 年頃に制定されている校訓の後に続く『愛し～自分を大切にし、他人を思いやる』『創り～新しいことに積極的に挑戦していく』『光れ～一人ひとりが社会に貢献できる人間になる』という文言もあり、これについては「とてもいい言葉だ」という意見が職員から出ているので、これらを生かしながらスクールミッションを策定しようかと考えているところである。例えば『光れ』のところに先ほどから上がっている『地域』というキーワードを入れ込むなどといった形で、2021 年 12 月に提出したものと連携しながら作っていきたいと考えている。

(4) 説明・報告事項

① 地域みらい留学の現状について

○ 令和６年度入学生に向けた説明会等について

・令和６年度の入学生について、合同説明会やオープンスクールの日程を紹介した。
・10 月 21 日（土）、22 日（日）に行った秋のオープンスクールは５名の参加であった。参加者は楽しく体験学習等を行っていたので、本校の魅力を伝えられたのではないかと思う。
・８月のオープンスクールと合わせて考えると、前回の協議会では２～３名の受検と見積もっていたが、現時点では３～４名が受検にたどり着くのではないかと考えている。
・校長の発案で、県教委にも協力してもらい、九州内の窯元のある教育委員会に佐賀県の入試制度と本校の特徴的な学びを伝え、学校や市町教委に説明に回る許可を取ってもらった。その後関係中学校等にパンフレットやチラシを持って説明に回った。

2. 令和６年度の留学生受け入れ態勢について
・９月補正予算が通ったため、空き家を利用したシェアハウス２棟（男子棟・女子棟）及びアパート等の改修が行われているところである。
・先週のオープンスクールの際も、まだリフォーム工事は行われていなかったが、シェアハウスも含めて見学してもらい、住居についてのイメージを持ってもらった。
・見守り人（ハウスマスター）についても９月の補正予算が通り、人選中であると思うが、今回質問等が出た場合には県に問い合わせ、後日回答したい。

3. 飲食協力店ステッカーについて
・先日有田町まちづくり課と一緒に料飲店組合の組合長にステッカーを渡した。
・料飲店組合に加入されていない店舗についてのステッカーの配付についても、料飲店組合の組合長に許可が得られた。
・今後はまずは料飲店組合を回り、その後組合以外の店舗に広げていく。配付はスピード感を持って 11 月中には終わりたいと考えている。

○ 質問：シェアハウスの９万円は１人でも４人でも９万円か。
回答（事務局）：１人９万円である。この中に光熱水費、共用スペースの維持費用、平日の夕食の食費で９万円と設定されている。
○ 質問：食費込みということか。
回答（事務局）：あくまで平日の夕食のみだがその通りである。
○ 質問：来年度の予算など、継続的な予算が組まれているのか。
回答（事務局）：リフォームに関しては県と町で捻出してもらっており、今年度限りとなっている。リフォーム終了後は管理されている業者が自分たちで経営できるようにこの料金設定となっている。
回答（有田町）：リフォーム費用は令和５年度のみである。生徒が１人暮らしを行う場合の一月３万円の生活支援費を支給するため９万円から３万円を引いた費用が必要な費用となっている。
○ 質問：リフォーム補助金についてはこの事業が何年続くか把握していないが、一定期間は維持するために協力するものと考えてよいか。
回答（有田町）： 全国募集についてはずっと続くものと考えているが、オーナー様たちと基本 10 年間は全国募集のために使うという協定を結ぶ形で補助している。もし、途中で災害などにより住居の損壊が激しくなった場合には、

例外が生じることがあるかもしれないが、10 年間は全国募集のために住居を提供していただくことになっている。

○ 質問：シェアハウスは４名となっているが１名しか住まなくても９万円なのか。

回答（有田町）： 今のところは１名しか住まなくても４名住んでも９万円となっている。この場合残りの空いた部屋については、公共的なこと、例えば行事の会場などに使うことは可能としている。

○ 質問：ある意味空き家対策にもなるような感じか。

回答（有田町）： 空き家対策としてもある意味画期的な取組ととらえることも可能かと思う。空き家に学生が入ってにぎやかな形になってくると周辺地域にも活気をもたらす可能性もある。

○ 質問：いきなり寮でなくシェアハウスやアパートに一人暮らしすることは、高校生にとってはハードルが高いと思われる。今全国募集を検討されている方と個別に相談されたりしていると思うが、どういった点で安心して住んでみようと思われるのか。

回答（有田町）：確かにおっしゃる通り心配なところがあると思う。現在見守り人としてハウスマスター的な人を県の方で雇う予定である。またシェアハウスに住む方については平日の夕食が提供される。夕食に関しては町内の業者さんが日替わりで作ってもらってハウスマスターが届け、届ける際に留学生の状況を把握する形を検討している。また、シェアハウスについては各部屋に鍵をつけており、共同生活の賑わいとプライベートの両立を目指している。

回答（事務局）：今年度の留学生の状況については、詳しく選んだ理由を聞いているわけではないが、６名中２名はたまたま親類などが近くにいたために安心して保護者も送り出したと思われる。また１名は賄い付きの下宿が空いていたために、こちらもある程度保護者の安心感が得られたのではないかと思われる。残りの３名だが、何とか頑張って独り暮らしをしているところである。食事の面の不安については、その改善策ということでシェアハウスに夕食がつくことになった。９月の対面の説明会では、途中まで良い雰囲気で説明を聞いていた親子が、寮がないことがわかると急にトーンダウンしたこともあったので、保護者や生徒の方が一人暮らしに不安を感じていることはよくわかる。今年度の留学生に関しては、今ある条件でもセラミックやデザインを学びたいという意識の高い生徒が集まってきているのではないかと思われる。

② 学校魅力評価システムアンケート結果について

・アンケートの対象は生徒全員で、全部で 90 問の項目がある。今回は校訓や学校評価計画に関連したものだけピックアップして説明する。

・ピックアップした８問全てにおいて、昨年度よりも数値が向上していることがわかる。

・「地域から大切にされていると感じる」という項目については特に向上しており、３年生に至っては 90％もの回答を得ている。

・「将来自分の住んでいる地域のために役立ちたいという気持ちがある」については、昨年度に比べると向上しているが、他と比べると低い値になっている。

● 意見：このアンケート項目自体がすごく難しいのではないか。幅広くとらえていくと、高校生がわからないようなところでも、役に立っていることはたくさんあるのではないか。そこまでとらえれば、数値はもっと良くなると思う。例えば、地域で働くことも地域に役立つが、外に出て地域をアピールすることも地域に役立っている。

回答（事務局）：昨年から『地域』についての定義もアンケートの実施団体に問い合わせてもあやふやだったため、今回のアンケートでは『地域』を生徒が住んでいる場所も、学んでいる有田の町も『地域』として広くとらえる定義にした。これが今回の数値の向上につながっているかもしれない。あわせて、役に立つことの幅広さを伝えれば、さらに数値が向上することは十分に考えられる。

○ 質問：「この学校を中学校におすすめできる」の回答で電気科の生徒が大きく数値を下げているが、何か理由はあるのか。

回答（事務局）：電気科内で学年別のデータを取ったところ、２年生のみが特に数値が低い状況が分かった。

回答（校長）：電気科は就職に結びついた資格取得のための補習が一番多く、その結果、就職先もよい企業から求人が来ており、３年生になると資格取得していてよかったと思うこともあるかもしれない。しかし、補習が放課後部活動に出られない状況になるため、機械と電気を比べたら、機械が良かったと思っている生徒がいるかもしれない。そういった意味では生徒から中学生に電気はあまりお勧めできないと思っているのかもしれない。県内の他の工業高校の電気科の志願倍率も低調である。

③ 地域との連携事業について

・内山地区のクリスマスイベントに機械科がベンチを制作する予定で、間もなく制作に入る。

・伊万里実業とのコラボレーションでは、先日伊万里実業のコーディネーターが来校。本校の全日制・定時制共に見学された。授業等を見ていただき、実際に連携できることのイメージを見てもらったところである。これは来年度に何か動き始めるかもしれない。

・これ以外も依頼は来ているが、生徒のマンパワーの問題で断らざるを得ない状況になっている。

・課題研究で行っている映画の撮影は、現在編集作業もほぼ終わった状況で、12 月下旬に完成試写会を行う予定。

(5) 諸連絡　　次回は、１２月に開催予定

(6) 閉　会　　閉会後希望者に施設の見学を行った。